

製品名: ATP5G ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe85326**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IP
反応性	人間、ネズミ
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウム、0.05% 保護タンパク質、50% グリセロールを含む TBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,IP 1:10-1:20
分子量	Calculated MW: 14 kDa; Observed MW: 14 kDa

抗原情報

遺伝子名	ATP5G
別名	ATP synthase lipid-binding protein; ATP synthase membrane subunit c locus 1
遺伝子 ID	516/517/518
SwissProt ID	P05496/Q06055/P48201
免疫原	ヒト ATP5G1/G2/G3 の合成ペプチド

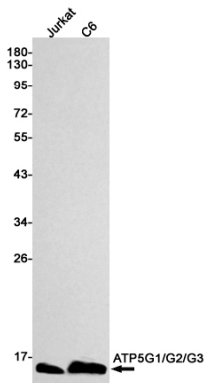
背景

ミトコンドリア膜 ATP 合成酵素 (F1F0 ATP 合成酵素または複合体 V) は、呼吸鎖の電子伝達複合体によって生成される膜を横切るプ

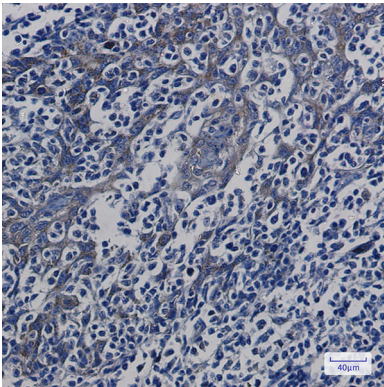
ロトン勾配の存在下で、ADP から ATP を生成します。F 型 ATPase は、膜外触媒コアを含む F1 と膜プロトンチャンネルを含む F0 の 2 つの構造ドメインで構成され、中心茎と周辺茎で結合しています。触媒反応の間、F1 の触媒ドメインでの ATP 合成は、中心茎サブユニットの回転機構を介してプロトンの移動と連動しています。複合体 F0 ドメインの一部です。おそらく 10 個のサブユニットのホモマーリングは、複合体回転要素の一部です。その他ミトコンドリア ATP 合成酵素のプロテオリピドをコードする遺伝子は 3 つあり、それらは輸入配列は異なるが成熟タンパク質は同一である前駆体を指定します。セロイドリポフスチン症（バッテン病）に罹患した動物や人間の貯蔵体内に蓄えられている主要なタンパク質です。

研究分野

画像データ



ATP5G 抗体を使用した Jurkat、C6 溶解物中の ATP5G1/G2/G3 のウェスタンブロット分析。



ATP5G1/G2/G3 抗体を使用したパラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。